

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシーⅣ	(TDB202)	
講義名 (コード)	情報リテラシーⅣ	(TDB202)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報処理技術者試験のITパスポート試験シラバスV6.3に対応した内容を身に付けることを目的とし、また本授業終了後に、本試験に合格することを到達目標とする。
全体の内容と概要	ITパスポート試験に必要な、ストラテジ系とマネジメント系(春学期)、テクノロジー系(秋学期)の知識をインプットして、問題集で知識をアウトプットする。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識(教科書)を整理すること、また問題集を何度も解きなおすこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	確認テスト提出	基礎理論 1 回目（離散数学/応用数学/情報理論）
2	確認テスト提出	基礎理論 2 回目（離散数学/応用数学/情報理論）
3	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング1回目（データ構造）
4	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング2回目（アルゴリズム）
5	確認テスト提出	アルゴリズムとプログラミング3回目（プログラム言語）
6	確認テスト提出	システム（処理形態/利用形態/性能と信頼性）
7	確認テスト提出	ハードウェア（コンピュータ/記憶装置/入出力装置）
8	確認テスト提出	ソフトウェア（OS/ファイルシステム/オフィスツール/その他）
9	確認テスト提出	データベース（方式/設計/処理機能）
10	確認テスト提出	ネットワーク 1 回目(方式/通信プロトコル/応用)
11	確認テスト提出	ネットワーク 2 回目(方式/通信プロトコル/応用)
12	確認テスト提出	セキュリティ1回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策)
13	確認テスト提出	セキュリティ2回目(情報セキュリティ/情報セキュリティ管理・対策)
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試験実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ITパスポート教科書&問題集 2025年度版 （TAC出版情報処理試験研究会）
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TDB206	キャリアデザインⅣ (DB)	
科目名 (コード)	TDB206	キャリアデザインⅣ (DB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位30
授業担当者	佐藤 貴志	時間数	
成績評価教員	佐藤 貴志	講義期間	秋期
実務者教員	いいえ	履修区分	
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	日本電御ビジネスマナーを学び、就職内定の合格とペアワークなどの実習からアウトプットする力やコミュニケーション能力を高める
全体の内容と概要	教科書のケーススタディをパークやグループアクティビティー
授業時間外の学修	自己英単語学習、各講義の予習と復習
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介・講義内容説明・基本英語学習	英語で自己紹介、講義内容と評価方法などを説明。日本の義務教育で学んできた英語よりさらにレベルアップした実践英語の学習法について説明
2	Session 1: 前期で学んだビジネス	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 教科書の基礎知識を学ぶ
3	Session 2: 前期で学んだビジネス	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
4	Session 3: 7 御客様がわかるように説明したのですが（営業活動）	教科書の基礎知識を学ぶ
5	Session 4: 7 御客様がわかるように説明したのですが（営業活動）	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
6	Session 5: 1 お客様と敬語で話したのですが（敬語の使い方）	教科書の基礎知識を学ぶ
7	Session 6: 1 お客様と敬語で話したのですが（敬語の使い方）	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
8	Session 7: 2 いろいろな日本語の表現をみますが（話し言葉と書きこ	教科書の基礎知識を学ぶ
9	Session 8: 2 いろいろな日本語の表現をみますが（話し言葉と書きこ	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
10	Session 9: 4 お客様にメールで挨拶をしましたが（ビジネスメールの	教科書の基礎知識を学ぶ
11	Session 10: 4 お客様にメールで挨拶をしましたが（ビジネスメール	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
12	Session 11: 5 お手紙を書くことになりましたが（ビジネス文書の形	教科書の基礎知識を学ぶ
13	Session 12: 5 お手紙を書くことになりましたが（ビジネス文書の形	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する 期末試験レビュー
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（改訂版） 武田聡子・長崎清美著
参考文献・資料等	日本電御就職活動ケーススタディ
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
講義名 (コード)	TDB206	キャリアデザインⅣ (DB)	
科目名 (コード)	TDB206	キャリアデザインⅣ (DB)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位30
授業担当者	米村 真識	時間数	
成績評価教員	米村 真識	講義期間	秋期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	自己の2年間のキャリアデザイン授業を総括・振り返りし、後輩へ主体的にプレゼン発表する。
全体の内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	状況によって変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TBL 2年間の総括	卒業式でのありたい姿を明確にする。マンドラチャートを使い卒業式までの時間の使い方、目標を明確にする。
2	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
3	進学のための準備①	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
4	就職のための準備①	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
5	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
6	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
7	進学のための準備②	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
8	就職のための準備②	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
9	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
10	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
11	発表	進路報告プレゼンテーションの発表をもって期末評価とする。
12	2年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて1分間スピーチを行う。
13	2年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて1分間スピーチを行う。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ		(TDB208)
講義名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ		(TDB208)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	スマートシティを大テーマとして、ビジネスアイデアや最新テクノロジーを習得する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	・シラバス説明 ・前期の振り返り①
2	同上	・前期の振り返り②
3	最新テクノロジーの体得	・スマートシティの関連テクノロジー概要①
4	同上	・スマートシティの関連テクノロジー概要②
5	課題・解決案創出スキルの体得	・ソリューション検討・ディスカッション①
6	同上	・ソリューション検討・ディスカッション②
7	同上	・ソリューション検討結果プレゼン
8	最新テクノロジーの体得	・スマートシティの関連テクノロジー概要③
9	同上	・スマートシティの関連テクノロジー概要④
10	課題・解決案創出スキルの体得	・ソリューション検討・ディスカッション③
11	同上	・ソリューション検討・ディスカッション④
12	同上	・ソリューション検討結果プレゼン
13	-	・後期の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ AI Skills Navigator II		(TDB208)
講義名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ AI Skills Navigator II		(TDB208)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	AI全般、生成AIの概要を理解し、生成AIの活用による課題解決スキルを身に付ける
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス説明 ・前期の復習
2	AIロジック基礎の体得	<ul style="list-style-type: none"> ・AIのデータ学習(教師あり学習/教師なし学習)
3	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIのパターン認識(データ分類/クラスタリング/強化学習)
4	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの精度向上に向けた対応
5	生成AIの活用・実践	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Copilot活用①(Word/PowerPoint)
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Copilot活用②(Excel)
7	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・#1~6の総復習
8	生成AIのビジネスへの適用スキルの体得	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソン準備①(お題提示・課題仮説構築)
9	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソン準備②(課題ヒアリング)
10	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソン準備③(解決策検討)
11	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソン準備④(資料作成)
12	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソン実施
13	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・AIハッカソンの振り返り
14	-	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験(中間プレゼンテーション)
15	-	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	Microsoft AI Skills Navigator
備考	-

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ		(TDB207)
講義名 (コード)	ITビジネス演習Ⅳ		(TDB207)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山 由彦	時間数	30
成績評価教員	居山 由彦	講義期間	後期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	いくつかの企業が現在取り組んでいるビジネスモデルやDXについて実践的な事例研究をすることを通して、DXが企業にもたらす価値や課題を習得する。 検討した事例をヒントに課題に対する改善DXアイデアを考え、その提案をプレゼンテーションできるようになる。
全体の内容と概要	連携企業の協力の元で行われるworkshopや実際のマーケットの視察から学ぶ授業
授業時間外の学修	登場する連携企業について各自の事前調査を奨励 日本の連携企業の事例研究をヒントとして、類似例などを海外で探すリサーチワーク
履修上の注意事項 等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Udemyの使い方の再確認	後期の概要 Udemyプログラムの選択
2	Udemyで「デザイン思考」を学び直す	「デザイン思考」をUdemyで学び直す 1
3	Udemyで「デザイン思考」を学び直す	「デザイン思考」をUdemyで学び直す 2
4	「デザイン思考」について各自が明確にプレゼンできるようにする	Udemyで学んだ「デザイン思考」を発表する 1
5	「デザイン思考」について各自が明確にプレゼンできるようにする	Udemyで学んだ「デザイン思考」を発表する 2
6	今後の授業目的の認識とスケジュール計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目的およびスケジュールを説明 ・教材となるUdemyの内容を概要を説明 ・チーム編成発表 ・【ワーク】テーマの決定と実施プロセス決定 →全体共有
7	計画に沿ってUdemyプログラムをグループで学ぶ	【ワーク】区切った部分までの内容をチームで確認 スライドに整理する
8	計画に沿ってUdemyプログラムをグループで学ぶ	【ワーク】区切った部分までの内容をチームで確認 スライドに整理する
9		TBL祭
10	テーマにしたUdemyプログラムのプレゼンをグループで作成する	【ワーク】区切った部分までの内容をチームで確認 スライドに整理する
11	テーマにしたUdemyプログラムのプレゼンをグループで行う	テーマに関する最終プレゼン 1 ・質疑応答
12	テーマにしたUdemyプログラムのプレゼンをグループで行う	テーマに関する最終プレゼン 2・質疑応答
13	復習	後期の復習
14	期末試験	後期試験
15	期末試験解説	試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	<u>企画・マーケティング・経営企画など多様な分野に従事。欧州6年・中国4年の海外勤務を通じ、EU統合や中国WTO加盟といった変革期に多国籍人材を率いて事業改革を推進。欧州マーケティング統括、中国現地法人社長、本社関連会社社長など要職を歴任。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ITビジネスとリスク環境論Ⅱ (TDB210)	配当学年	2
講義名 (コード)	ITビジネスとリスク環境論Ⅱ (TDB210)	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス	時間数	30
対象コース	デジタルビジネス	講義期間	秋
専攻		履修区分	必修
授業担当者	居山 由彦	授業形態	講義
成績評価教員	居山 由彦	実務者教員	○
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

目的 (位置づけ)	今日のサイバー空間で起きるサイバー犯罪の実態を理解したうえでそれに備えるためのセキュリティ技術やコンプライアンス規準についての基礎知識を身につける
到達目標	新しい経済社会空間になつたサイバー、ここでの情報環境の整備について、考える力を付けてほしい。
全体の内容と概要	キーワード：サイバー空間の知識、犯罪、法整備、事例
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	今回、UDEMYも活用していくので、ノートパソコンを忘れないようにしてほしい。
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	講師	授業内容
1	担当講師	情報セキュリティとは ①情報セキュリティ事故事例 ②情報セキュリティはなぜ必要なのか？
2	担当講師	不正のメカニズム ①情報セキュリティマネジメント ②情報資産台帳 ISMSのポイント 事業継続マネジメント
3	担当講師	リスクマネジメント リスクアセスメント 情報セキュリティに対する取り組み
4	担当講師	情報セキュリティ技術 暗号技術 認証技術
5	担当講師	アクセス制御技術 セキュアプロトコル
6	担当講師	サイバー攻撃手法 Webサイトに関する攻撃 接続に関する攻撃
7	担当講師	サイバー攻撃手法 ①ソーシャルエンジニアリング、パスワードへの攻撃 ②Dos攻撃、標的型攻撃
8	担当講師	情報セキュリティ対策 人的セキュリティ対策 物理的セキュリティ対策
9	担当講師	情報セキュリティ対策 ①技術的セキュリティ対策 ②証拠保全、マルウェア対策、モバイル対策
10	担当講師	情報セキュリティに関する法律・標準 個人情報保護法 セキュリティ関連法規 セキュリティ関連標準
11	担当講師	企業概要 サイバーセキュリティーサービス
12	担当講師	脆弱性診断はどんなことをすべきか Workshop
13	担当講師	脆弱性診断と事例
14	担当講師	デジタルビジネスとコンプライアンス サイバー犯罪防止体制まとめ
15	担当講師	期末試験

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

Digital Business Syllabus

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	金融テクノロジーⅡ	TDB212	
講義名 (コード)	金融テクノロジーⅡ	TDB212	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	居山 由彦/池田一男	時間数	30
成績評価教員	居山由彦/池田一男	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	選択必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

目的 (位置づけ)	銀行はじめ金融機関の役割と歴史をふまえ、技術革新がもたらす新しいキャッシュレス社会、FinTech社会、そしてスタートアップの資金調達を学ぶ
到達目標	各種金融機関の役割と創業融資の手段を理解すること
全体の内容と概要	講義が主体だが、流通キャッシュレスや株取引等特定のテーマについて体験的視察を含める
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点)	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	日程	講師	授業内容
1	第1週	担当講師	ベンチャー企業の上場（1）日本の上場市場の全体像 制度、規模、特徴、最近の動向 世界の主要市場との比較
2	第2週	担当講師	ベンチャー企業の上場（2）ベンチャー企業にとっての上場市場 制度、規模、特徴、最近の動向 ベンチャー企業が上場する目的は何か？
3	第3週	担当講師	ベンチャー企業の上場（3）上場されるまでの手続きは？（概要） 上場までの関係者（証券会社、監査法人、印刷会社、弁護士、税理士、証券代理人、司法書士、 社会保険労務士、弁理士、コンサルティング会社）と役割（その1）
4	第4週	担当講師	ベンチャー企業の上場（4）上場されるまでの手続きは？（概要） 上場までの関係者（証券会社、監査法人、印刷会社、弁護士、税理士、証券代理人、司法書士、 社会保険労務士、弁理士、コンサルティング会社）と役割（その2）
5	第5週	担当講師	ベンチャー企業の上場（5） 株式市場の投資家の種類、特徴、動向
6	第6週	担当講師	ベンチャー企業の上場（6）上場までのストーリー どんな企業が上場しているのか 上場する目的は何か？明確か？コストに見合うメリットはあるのか？
7	第7週	担当講師	ベンチャー企業の上場（7） 東京証券取引所 パーチャル見学会
8	第8週	担当講師	ベンチャー企業の上場（8）最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その1）
9	第9週	担当講師	ベンチャー企業の上場（9）最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その2）
10	第10週	担当講師	ベンチャー企業の上場（10）最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その3）
11	第11週	担当講師	ベンチャー企業の上場（11）最初の資金調達はいくら必要か？ 投資家、ベンチャーキャピタルからの資金調達、資本政策、株価
12	第12週	担当講師	ベンチャー企業の上場（12）？ ESG投資とベンチャー企業 Fintechとベンチャー企業
13	第13週	担当講師	ベンチャー企業の上場（13）上場準備のポイントは何か？ 会計、監査、コーポレートガバナンス、内部統制、コンプライアンス、リスク管理
14	第14週	担当講師	振り返り試験（4択を想定）
15	第15週	担当講師	テストの解説並びに講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、 企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	デジタル・マーケティングⅣ	(TDB214)	
講義名 (コード)	デジタル・マーケティングⅣ	(TDB214)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタルマーケティング、マーケティングオートメーション、カスタマーサクセス、マーケティングアナリティクスについての必要な知識を体系的に習得する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	・シラバス説明 ・前期の振り返り
2	ペルソナ・カスタマージャーニー設計の振り返り	・ペルソナ、カスタマージャーニー作成振り返り
3	デジタルマーケティングの全体像・個別施策を体系的に理解	・デジタルマーケティングの全体像説明 ・デジタルマーケティングの個別施策説明①
4	同上	・デジタルマーケティングの個別施策説明②
5	同上	・デジタルマーケティングの個別施策説明③
6	マーケティングオートメーションの基礎を体系的に理解	・マーケティングオートメーション概要説明
7	同上	・マーケティングオートメーションのシナリオ説明
8	同上	・マーケティングオートメーションのKPI説明
9	カスタマーサクセスの基礎を体系的に理解	・カスタマーサクセスの概要説明
10	同上	・カスタマーサクセスのシナリオ説明
11	同上	・カスタマーサクセスのKPI説明
12	マーケティングアナリティクスの概要を理解	・マーケティングアナリティクス概要説明 ・簡易分析実施
13	-	・#1~12の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅣ		(TDB216)
講義名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーションⅣ		(TDB216)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山	時間数	30
成績評価教員	居山	講義期間	後期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	「デザイン思考」の手法を使って、学生のアイデアを新製品、新サービスの提案としてまとめる。それをTBL Venture Pitchで提案する。
全体の内容と概要	「デザイン思考」をフル活用し、各自の新規事業、新製品アイデアのプロトタイプを作成する。
授業時間外の学修	自分なりの新規事業もしくは新製品の構想を考える
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期授業の目的を理解	Venture Project Workshop TBL Venture Pitch 説明
2	TBL Venture Pitchを理解	Venture Project Workshop 1 TBL Venture Pitch とは
3	マスメディアと広告媒体にまつ わるDXの実態を学ぶ。そこから メディアの情報発信の課題を自 覚する	ネット・メディア・インパクト デジタル広告とネット・メディアは共存できるか 個人情報問題がネット・メディアに及ぼすインパクト
4		ネット・メディア・インパクト デジタル広告とネット・メディアは共存できるか 個人情報問題がネット・メディアに及ぼすインパクト
5	TBL Venture Pitchにエントリーする テーマについてプロジェクト活動する	Venture Project Workshop 2 テーマ決定
6	TBL Venture Pitchにエントリーする テーマについてプロジェクト活動する	Venture Project Workshop 3 グループ決定
7	TBL Venture Pitchにエントリーする テーマについて提案をまとめる	Venture Project Workshop 4 プレゼンテーショントレーニング 1
8	TBL Venture Pitchにエントリーする テーマについて提案をまとめる	Venture Project Workshop 5 プレゼンテーショントレーニング 2
9		
10	TBL Venture Pitchにエントリーする提 案を発表する	Venture Project workshop 6 Presentation 0 (Venture Pitch審査) TBL Venture Pitch プレゼンテーション資料完成
11	TBL Venture Pitchにエントリーする提 案を発表する	venture Project workshop 7 Presentation 1 Venture Pitch審査 TBL Venture Pitchプレゼンテーション資料完成・提出
12	TBL Venture Pitchの振り返りをする	TBL Venture Pitch 振り返り
13	TBL Venture Pitchの振り返りレポート を書く	TBL Venture Pitch 振り返りレポート作成
14	TBL Venture Pitchの振り返りレポート を提出する	試験 1/16作成のレポート提出
15	追試 + 総合振り返り	追試 + 総合振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス統計学Ⅱ (DB)		(TDB218)
講義名 (コード)	ビジネス統計学Ⅱ (DB)		(TDB218)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 涼輔	時間数	30
成績評価教員	中島 涼輔	講義期間	後期
実務者教員		履修区分	必須
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	財務分析の基礎および管理会計
全体の内容と概要	<p>計数感覚を身に着けビジネスに活用</p> <p>1.決算書とは？ストックとフローの2つの性格 貸借対照表「資産」「負債」「純資産」にはどのようなものか 損益計算書 収益と費用はどのようなものか</p> <p>2.損益計画と資金計画シミュレーション/計画順位とその手法/予測財務諸表の流れ/ 損益計画の基礎知識/目標指標の設定</p> <p>3.簡単な財務諸表の見方、その-1 企業の稼ぐ力を見る（収益性分析）、売上高利益率と回転率</p> <p>4.簡単な財務諸表の見方、その-2 企業の財務リスクを見る、自己資本比率・流動比率・固定比率</p> <p>5.簡単な財務諸表の見方、その-3 分析した結果を基にグループディスカッション、講評</p>
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	9/30 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
2	10/7 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
3	10/14 (祝) 課題	簿記仕訳力養成課題 仕訳問題 (2)
4	10/21 日常の取引の基礎理解	小口現金・クレジット売掛金・手形取引・電子記録債権・債務 ・さまざまな帳簿の関係
5	10/28 日常の取引の基礎理解	貸付金・借入金、利息の計算等・有形固定資産(取得・賃借)、未収入金 未払金仮払・仮受、給料、立替金・預り金等
6	11/4 (祝) 課題	既学習の内容確認テスト (貸借対照表・損益計算書)
7	11/11 日常の取引の基礎理解	訂正仕訳・試算表・株式の発行・税金(消費税)・証ひょうと伝票
8	11/18 決算の基礎理解	決算・精算表・決算整理 I～VI・税金
9	11/25 財務諸表の基礎理解	決算整理後試算表・損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り・剰余金の配当と処分
10	12/2 財務分析基礎	収益性・安全性・効率性 (プリント)
11	12/16 直接原価計算とCVP	管理会計・CVP分析 (プリント)
12	2024/12/23 課題	
13	2025/1/13 (祝) 課題	
14	期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商簿記 3 級合格テキスト・日商簿記 3 級トレーニング (TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記 2 級合格テキスト商業簿記・工業簿記 (TAC出版)・経営分析の基本 (日本経済新聞出版社)・中小企業診断士 2 次試験等
備考	会計・財務論 I (DB) と共通部分あり

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	会計・財務論Ⅱ (DB)		(TDB222)
講義名 (コード)	会計・財務論Ⅱ (DB)		(TDB222)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では企業活動における財務活動にて、会計面からアプローチし、企業の資金状況について理解する。
全体の内容と概要	企業財務活動について、財務諸表を理解し企業の安定性、収益性が理解できるようにする。前期の授業をもとにして、後期の授業の授業内容の学習にて、全体がつかめるようにする。
授業時間外の学修	学習した知識をもとに、HPなどに掲載されている企業の財務諸表を見ながら、企業の財務活動と安定性について考えてみる。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「GMROI」「交差比率」について理解する	6章：在庫を効率化するにはどうしたらいい？②
2	変動損益計算書を理解する	7章：損益分岐点の求め方・活用のしかた①
3		休講
4	いくら売れば利益がでるのかを理解する	7章：損益分岐点の求め方・活用のしかた②
5	「管理会計」について理解する	8章：管理会計についてしっかり理解しておこう①
6		休講
7	さまざまな「原価」について理解する	8章：管理会計についてしっかり理解しておこう②
8	「回収期間法」「NPV法」について理解する	その他：投資の経済効果について考える
9		休講
10	バランススコアカードの使い方について理解する	9章：バランススコアカードを上手に活用しよう
11	「為替予約」「オプション取引」について	その他：為替リスクについて考える
12		卒業旅行のため休講
13		後期の復習
14		後期試験
15		試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	教科書：図解でわかる_小さな会社の経営に活かす会計
参考文献・資料等	授業にて紹介していく
備考	授業のPDFは各時間用で作成

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコミュニケーションⅡ (DB)	(TDB224)
講義名 (コード)	ビジネスコミュニケーションⅡA (DB)	(TDB224A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	DB2	単位数 2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数 30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	長い文章の意味をつかむ	パワードリル文字語彙N2 読解 中文
2	長い文章の意味をつかむ	パワードリル文字語彙N2 読解 長文
3		演習問題
4	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解 演習形式
5	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解 演習形式
6	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解 演習形式
7	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解 演習形式
8	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
9	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
10	読解の攻略方法を身につける	パワードリル文字語彙N2 読解 演習形式
11	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
12	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
13	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン読解N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコミュニケーションⅡ (DB)	(TDB224)
講義名 (コード)	ビジネスコミュニケーションⅡB (DB)	(TDB224B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 2年生
対象コース	DB2	単位数 2単位
授業担当者	丹治 理恵	時間数 30時間
成績評価教員	丹治 理恵	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフ、比較問内容理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題8日目
2	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題9日目
3	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題10日目
4	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦
5	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
6	文法・接続詞・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 11日目
7	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 12日目
8	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 13日目
9	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 14日目
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
12	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 15日目
13	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N1 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 16日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーションⅡ		(TDB226)
講義名 (コード)	コミュニケーションⅡA (DB)		(TDB226A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 1 9～2 2 TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 3～2 6 TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 7～3 0 TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 即時応答 3 1～3 9 TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 即時応答 4 0～4 8 TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 統合理解 4 9～5 2 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 統合理解 5 3～5 6 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
9		JLPT模試
10		JLPT模試
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
13	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	コミュニケーションⅡ		(TDB226)
講義名 (コード)	コミュニケーションⅡB (DB)		(TDB226A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 1 9～2 2 TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 3～2 6 TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 7～3 0 TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 即時応答 3 1～3 9 TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 即時応答 4 0～4 8 TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 統合理解 4 9～5 2 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 統合理解 5 3～5 6 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
9		JLPT模試
10		JLPT模試
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
13	総合的な聴解力を身につける。	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。